

# 学びUPサポートガイド

Ver. 4

**確かな学力を培う7つのヒント**

**特別支援教育の充実を図る3つのヒント**

**健康な心身を培う3つのヒント**



桜と涌谷城

写真提供:宮城県観光課

平成28年3月

**宮城県北部教育事務所**

## 目 次

### はじめに

「学びUPサポートガイド」Ver. 4 発刊に当たって

宮城県北部教育事務所 所 長 小野 聡子

## 第1章 確かな学力を培う7つのヒント

### RESEARCH (現状把握)

#### ヒントⅠ 児童生徒の学力の現状・学校の現状について

- (1) 全国学力調査結果の分析をどう活用するか ～すべての教科へ生かすために～ ----- 1
- (2) 全国学力調査問題の分析の例 ①～⑤ ----- 3
- (3) 全国学力調査結果を生かした取組 ----- 9

### VISION (展望)

#### ヒントⅡ 学びを支える確かな土台づくり

- (1) 教育課程を見直す8つのチェックポイント ----- 10
- (2) 校内研究活性化の6つのチェックポイント ----- 11

### PLAN (計画)

#### ヒントⅢ 宮城県の学力向上対策の活用

- (1) 「5つの提言」を生かした授業づくり ----- 12
- (2) 「算数・数学ステップ・アップ5」を生かした授業づくり ----- 13
- (3) 学力向上サポートプログラム事業の活用 ----- 14
- (4) 学力向上成果普及マンパワー活用事業の活用 ----- 15
- (5) みやぎ単元問題ライブラリーの活用 ----- 16

### DO (実施)

#### ヒントⅣ 学力向上を目指した授業づくり

- (1) 教科指導力の向上を図る校内研究の工夫 ----- 17
- (2) 自ら学ぶ意欲や問題解決能力を高める学習指導の工夫 ----- 18
- (3) 振り返りを生かした学習指導の工夫 ----- 20
- (4) 言語活動を充実させる指導の工夫 ----- 21

#### ヒントⅤ 家庭学習の定着のために

- (1) 「家庭学習の手引き」の見直し ----- 22
- (2) 家庭学習の充実に向けた働き掛け ----- 23
- (3) 学習習慣の確立に向けた働き掛け ----- 26

### CHECK (評価)

#### ヒントⅥ 校内研究の評価のために

- (1) 校内研究の評価のポイント ----- 27

### ACTION (改善)

#### ヒントⅦ 次年度の研究計画作成のために

- (1) 研究主題，副題，研究仮説，研究の視点改善のポイント ----- 29
- 【資料】各校の校内研究主題一覧（平成27年度） ----- 30
- (2) 校内研究計画の作成例 ----- 32
- (3) 「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」について ----- 34

## 第2章 特別支援教育の充実を図る3つのヒント

#### ヒントⅠ 教育課程編成のポイント

- (1) 一人一人の課題に応じた編成のポイント ----- 37
- (2) 個別の指導計画作成のチェックポイント～「気づきシート」を活用して～ ----- 38
- (3) 個別の教育支援計画作成のチェックポイント ----- 39
- (4) 教育課程編成の実際 ----- 40

#### ヒントⅡ 一人一人に応じた指導のために

- (1) 学習指導案作成のポイント ----- 41

#### ヒントⅢ 実際の指導Q & A

- (1) 特別支援学級編 ----- 42
- (2) 通級による指導編 ----- 44

## 第3章 健康な心身を培う3つのヒント

#### ヒントⅠ 体力向上の取組

- 45

#### ヒントⅡ 生徒指導の取組

- (1) 児童理解を深める取組 ----- 47
- (2) いじめ防止の取組 ----- 48
- (3) 校内生徒指導体制の構築 ----- 49
- (4) 生徒指導に生かす小中連携の取組（小中一貫校を例に） ----- 51

#### ヒントⅢ 心を育てる道徳の授業づくり

- 52

## 「学びUPサポートガイド」Ver.4 発刊に当たって

宮城県北部教育事務所 所長 小野 聡子

「学びUPサポートガイド」(以下「学びUP」)は、管内各学校の学力向上に向けた取組を継続してサポートすることをねらいとして、平成23年2月に初版を発刊いたしました。その後、改訂を重ねて、平成25年3月に発刊した「学びUP」Ver.3は、管内の教務主任等研修会、研究主任等研修会、各学校の校内研修等で参考資料となるなど、管内児童生徒の学力向上のために役立てていただいていることに、心から感謝申し上げます。

さて、宮城県教育委員会では、平成25年10月に『学力向上に関する緊急会議』から「学力向上に向けた5つの提言」を発信しました。子供たちが安心して学校生活を送り、学習意欲や自信をもたせるためには、教師と子供、子供同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくことが必要です。その足がかりとして、各学校のすべての先生方にすぐに取り組んでいただきたい事項を提言としてまとめたものです。

平成27年度の全国学力・学習状況調査では、昨年度との比較で、全国平均を下回る教科が増えるという結果になりましたが、児童生徒質問紙調査や学校質問紙調査においては、これまで課題となっていた調査項目に改善傾向が見られています。このことは、「学力向上に向けた5つの提言」を踏まえた授業づくりの成果が徐々に現れてきたものと受け止めており、今後も各学校で、調査結果の分析を基に、「5つの提言」を踏まえた授業改善の取組を積み重ねていただくことを期待しております。

今回の「学びUP」Ver.4は、「確かな学力を培う7つのヒント」・「特別支援教育の充実を図る3つのヒント」に加え、新たに「健康な心身を培う3つのヒント」を加えた3章構成といたしました。第3章では、体力向上、生徒指導、そして道徳の授業づくりについて、留意点及びポイントを示しました。また、第1章では、「5つの提言」を含め、最新の情報も紹介しています。

各章のヒントには、これまでと同様に管内小・中学校の実践例を掲載しており、新たな取組も紹介することで内容の充実を図っております。国立教育政策研究所の「授業アイデア例」などの資料を引用、参考にしておりますので、ぜひ活用していただきたいと思います。他にも県教育委員会発行の『確かな学力を育む学び合い～「みやぎ授業づくりスタンダード」の活用』(平成28年1月)など、学力向上に関わる多くの有用な資料がありますので、併せて活用していただきたいと思います。

この「学びUP」Ver.4が校内研修等における資料として、先生方の学び合いを深め、質の高い授業づくりをサポートするための一助となれば幸いです。

結びになりますが、大変貴重な実践事例(学校名は巻末に掲載しております)を御提供いただきました各学校の校長先生をはじめ、教職員の皆様に心からお礼を申し上げ、発刊に当たっての挨拶といたします。

## 第1章 確かな学力を培う7つのヒント

## I (1) 全国学力調査結果の分析をどう活用するか ～すべての教科へ生かすために～

- ◎ 全国学力調査の結果は、児童生徒の学力を客観的にみる一つの目安となります。また、結果の分析を工夫すると、より効果的に指導の改善に反映させることが可能です。
- 国立教育政策研究所（以下 国研）が作成した解説資料、県の分析などを参考にして、学校独自の分析を行い、国語、算数・数学、理科以外の教科にも共通する課題を明確にして、学校として取り組んでいくことが重要です。

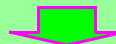
### 1 出題の趣旨

- 各教科の問題ごとに把握する力やその意義、場面設定などについて把握する。



### 2 問題の分析

- 学習指導要領における領域・内容を確認する。
- 何学年の教科書のどのページと関連している内容なのかを押さえる。



### 3 調査結果の分析

- 自校の過去数年間の結果と全国、県の正答率を比較したり、児童生徒の誤答を分析したりすることで、児童生徒の学力の傾向やこれまでの指導の成果と課題を把握する。



### 4 今後の学習指導

- 正答のためには、どのような学習指導改善が求められるのか明らかにする。
- どの学年でどんな力を付けていくのか共通理解を図る。
- 学校としてのこれまでの取組を見直し、新たな取組について検討する。
- 国語、算数・数学、理科以外の教科の共通実践事項を設定する。



### 5 学力向上対策の検討

- 全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた「授業アイデア例」（国研）や「確かな学力を育む学び合い～『みやぎ授業づくりスタンダード』の活用～」（宮城県教育委員会）等を参考に授業改善を図る。
- 全国学力調査の分析だけでなく、その他の調査（標準学力検査、定期考査、意識調査等）の分析も加えて、総合的に学力向上対策を検討する。
- 新たに設定する具体的な手立てについては、校内研究と関連させながら、整合性を図り、共通理解・共通行動をとるようにする。
- 新たな指導の有効性について、いつ・どのように検証するのかを明確にする。

国研の資料を参考にする。

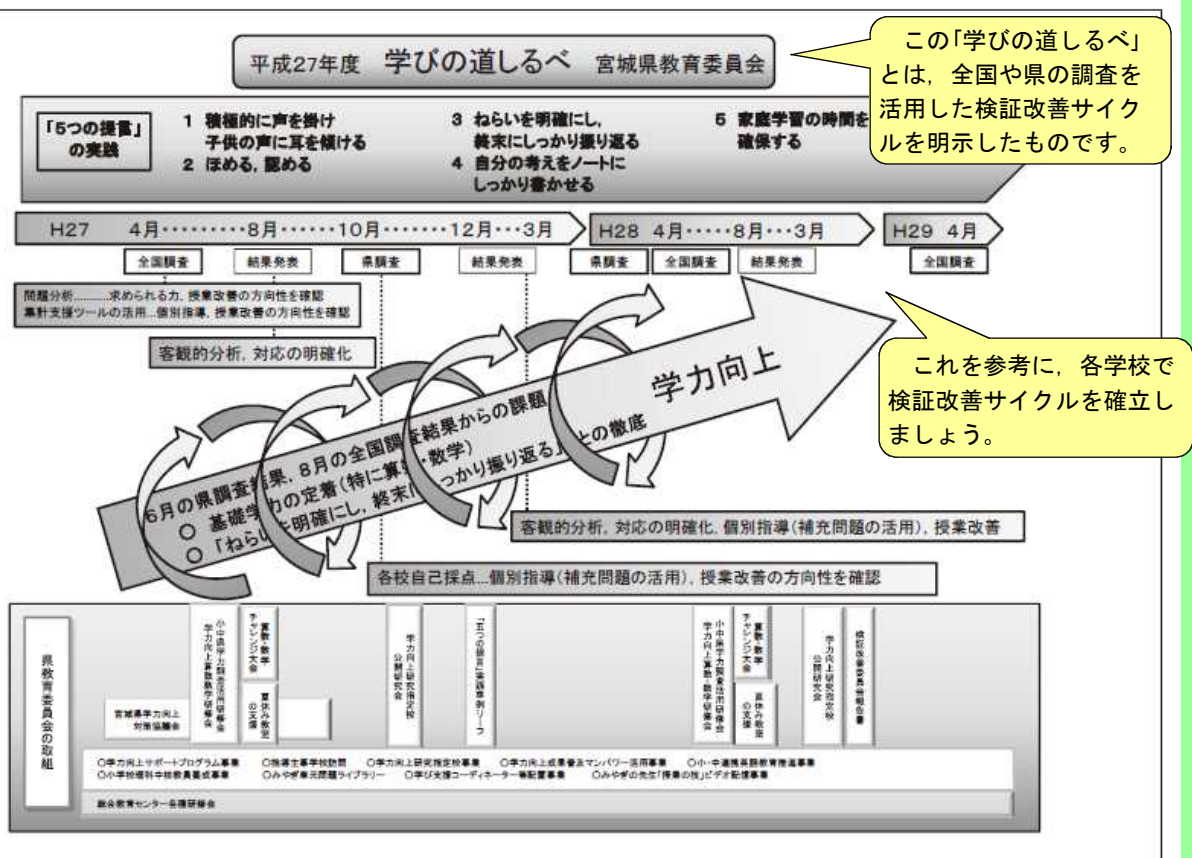
### ◎ 各学校では、こんな取組が・・・

まず、先生方全員で問題を解いてみることで、そして、学校独自の分析をしてみることが大切です。3ページから分析の参考として、「平成27年度 全国学力調査問題の分析の例」を紹介します。

## 学力向上に関する県の取組の理解と活用

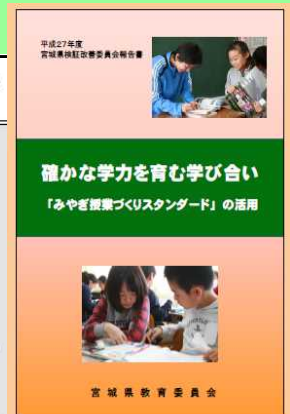
### ◎ 課題に応じた県としての取組や提案を活用しましょう。

全国や県の学力・学習状況調査について、宮城県全体としての課題やその改善に向けた学力向上対策をつかんでおくと、自校の課題に応じて活用することができます。ここでは上段で「学びの道しるべ」、下段で「確かな学力を育む学び合い」の一部を取り上げましたが、12ページからのヒントⅢでも県の学力向上対策の活用例を紹介しています。



### 確かな学力を育む学び合い ～「みやぎ授業づくりスタンダード」の活用～

- 一人一人に確かな学力を育むために
  - 1 学び合いを大事にしましょう
  - 2 学び合いを支える学習習慣を育てましょう
  - 3 思考を深める「話し合い」にしましょう
- 確かな学力を育む学び合いのために
  - 視点1 児童生徒は話し合いの目的、内容、方法を明確に捉えていますか
  - 視点2 全員が答えを出してから話し合いをしようとしていませんか
  - 視点3 話し合いが深まらないまま、数人の発表で終わらせていませんか
  - 視点4 児童生徒の発表の後で教師が説明を補っていませんか
  - 視点5 ペア学習やグループ学習が、発表の練習の場になっていませんか
  - 視点6 ゴールを見据えて、主体的な話し合いを目指していますか
    - ・「一人一人が学び合う楽しさと分かる喜びを実感できる」話し合いの事例
- 教師同士の学び合い ー板書を活用した模擬授業を通してー



思考を深める話し合いにするためのヒントが載っています。

I (2) 全国学力調査問題の分析の例① 小学校国語

5 次は、読書のことについて書かれた新聞の「コラム」(筆者自身の思いや考えなどを述べた短い記事)です。この「コラム」は、全体の内容が1から5までのまことに分かれていきます。これをよく読んで、あとの1と2の間に答えましょう。

【コラム】 記事の中の▼は、まじりを表す印です。

1▼四月二十三日 ものは、その時その時によつて読みの味わいがちがう」といふものがある。子供時代に読んだ本を大人になつて読み返すと、また別の楽しみが味わえるものだ。4▼先日、「セロ弾きのゴーシュ」を再び読んだ。当時は気が付かなかった人物の見事なえがきやたくみな描写に、賢治のすばらしさを実感した。5▼世界の人が本について考える日。子供はもちろん、かつて子供であった大人も真心に返つて本を楽しむ。そんなひとときもよいものだ。

※1「描写」…かき表すこと  
※2「真心」…子供の心

一 筆者は、「子ども読書の日」について、自分の読書体験を交えながら書いています。その体験が書かれているまじりを、「コラム」の中の1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

二 筆者は、自分の思いや考えを根拠付けるためにある言葉を引用しています。それは、どの言葉ですか。最も適切な言葉のはじめの五文字を書きぬきましょう。ただし、句点(。 )や読点(、)、「」は字数にふくみません。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

5 (2)の調査結果

(正答率 %)

設問番号	設問の概要	全国(公立)	宮城県
5 (2)	コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く。	19.8	16.7



【ステップI】 まず、どのような誤答傾向が見られたかを把握し、課題をつかみましょう。

誤答傾向①	誤答傾向②	誤答傾向③
引用している言葉だけでなく、引用部分を含む文章全体を答えている。(×ある作家の)	引用部分を「 」で括弧することはとらえているが、それ以外の「 」と混同している。(×世界本の日 ×子ども読書)	設問に「自分の思いや考えを根拠付けるため」とあることから、引用部分を最後のまじりと誤ってとらえている。(×世界の人々)

【課題】 「引用」とは、本や文章の一節や文、語句などを引いてくることであると理解すること。

【ステップII】 次に、明らかになった課題に応じて、指導の方策を具体的に立てましょう。

【具体的な指導の方策】

- **理解に向けて** : 引用の意味、引用の仕方(「 」で括弧すること等)、引用することの目的(利点)等について、直接的に指導する。(□学年の教科・領域□□「□□□」の題材で)
- **活用を通して** : 「自分の考えを補説したい」「説得力を高めたい」等、目的意識をもって自ら選んで引用する言語活動を設定することで、実生活で生きて働く力を高める。

## I (2) 全国学力調査問題の分析の例② 中学校国語

【ステップI】 正答率が低かった問題について、傾向や関連性から課題をつかみましょう。

正答率が低かった問題 (B問題)			(正答率 %)	
設問番号	設問の概要		全国(公立)	宮城県(公立)
2	(三)	資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く。	23.0	22.2
3	(三)	文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げ理由も入れながら自分の考えを書く。	31.1	30.6

自分の考えを書く際、条件を満たしていなかった解答例

〔解答類型から〕 2(三)

設問では「2020年の日本がどのような社会になっていると予想するか」「その社会にどのように関わっていきたいか」の二つを求めているが、どちらかの記述がない。または、「具体的に書くこと」という条件を満たしていない。

〔解答類型から〕 3(三)

示された二つの条件のうち、「話の展開を取り上げること」「理由を書くこと」のどちらかの記述がない。

### 課題

※全体の傾向だけでなく、生徒一人一人の解答の状況を解答類型に照らして把握しておくことも大事です。

- 問われていることや記述の条件が複数ある場合、それらの全てを踏まえて書くこと。
- 自分の考えの根拠を明確にして書くことや、具体的に書くこと。

【ステップII】 次に、明らかになった課題に応じて、指導の方策を具体的に立てましょう。

### 【言語活動の質を高める】

#### ○ 教師が評価・指導

情報をより正確に理解し、より適切に表現できるよう、具体的な規準に照らして評価・指導する。(適切な記述の仕方、不足している内容等を具体的に添削するなど。)

#### ○ 学び合いの活用

自分の考えを書いたり、話し合ったりする際、「示された視点に沿っているか」「自分の考えを支える根拠が明確に示されているか」等について助言し合う学習活動を設定する。

→「平成27年度 中学校 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例(p7)」から

#### 【書き直した文章の例】

#### 第3時

- ⑥ 第2時に書いた文章を互いに読んで、二つ以上の資料から取り出した情報を関連させながら、自分の考えを具体的に書いているかどうかという観点で助言し合い、それを基に書き直す。



自分がどのように暮らしていきたいのかも書き足したらどうかな。

△のグラフを見ると、「世の中は、だんだん科学や技術が発達して、便利になって来るが、それにつれて人間らしさがなくなっていく」という意見に反対している回答者が1993年以降は2割未満ですが、私もこの意見に反対です。なぜなら、㊸のようにITを活用した植物工場があれば、いつでも新鮮な野菜が食べられて、人間らしく健康的に暮らすことができると思うからです。自分で調べてみたら、サラダ菜などの野菜を育てている植物工場もあることが分かりました。私は、科学や技術が発達することで、今以上に食生活が充実して大勢の人が生き生きと暮らすことができるようになると思います。~~だから、科学や技術の発達による暮らしの変化はよいと思いません~~ 私は、今後、レタスなどの工場育ちの野菜を積極的に購入して食べてみたいと思います。また、友人にも試してみるように勧めるなど、科学や技術の発達による食生活の変化を楽しんで暮らしたいと思います。

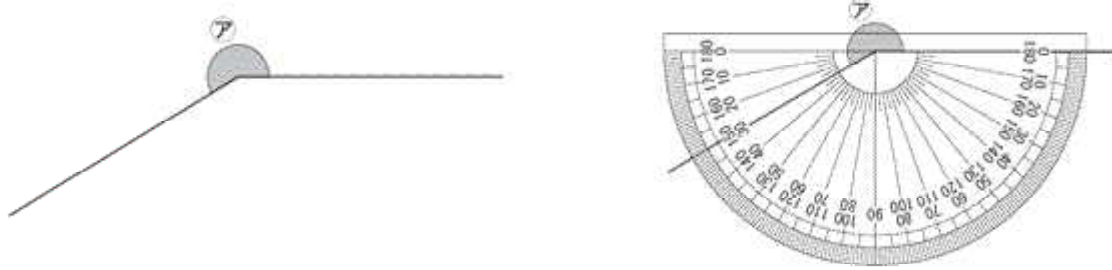


I (2) 全国学力調査問題の分析の例 ③ 小学校算数

関連した設問のクロス集計をしてみましょう

4 (2) アの角の大きさは何度ですか。答えを書きましょう。

アの角の大きさをはかります。



(1) アの角の大きさについて正しいものを、下の 1 から 4 までのの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 90°未満である。
- 2 90°以上で、180°未満である。
- 3 180°以上で、270°未満である。
- 4 270°以上で、360°未満である。

4 (1)と(2)の調査結果

(正答率)

設問番号	設問の概要	全国(公立)	宮城県
4	(1) 90°, 180°, 270°, 360°を規準として角の大きさを見当付けたものから、正しいものを選ぶ	81.3	83.8
	(2) 分度器の目盛りを読み、180°より大きい角の大きさを求める	58.2	56.0

150°と解答した児童は37.2%(全国は35%)



角の大きさの見当付けはできていても、正しく測定できていない児童もいることが分かります。

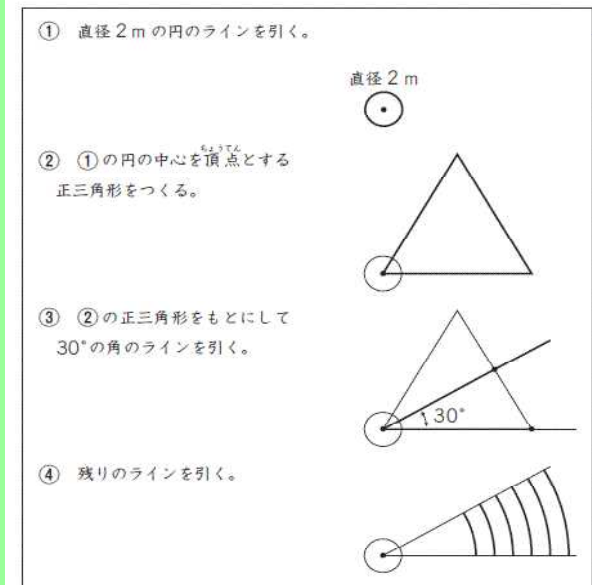
角の大きさの見当を付けることと、実際に測定することを関連付けることが大切です。

「見積もる」→「測定する」→「振り返る」といった学習活動が極めて重要です。

また、誤答を取り上げて「150°と答えた気持ちが分かるかな?」と問い掛け、なぜ間違えたのか、どうしたら正しく測定できるのかを話し合わせるといった活動も考えられます。

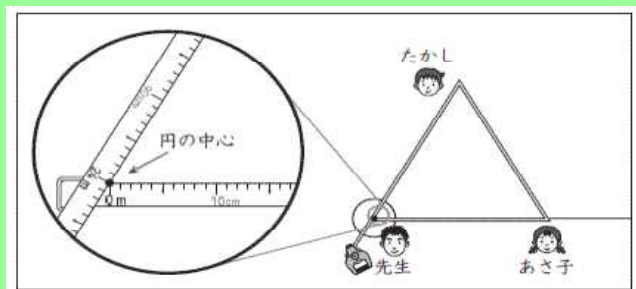
I (2) 全国学力調査問題の分析の例 ④ 小・中学校 算数・数学

あさ子さんたちは、先生といっしょに、次のようにソフトボール投げのラインを引きます。



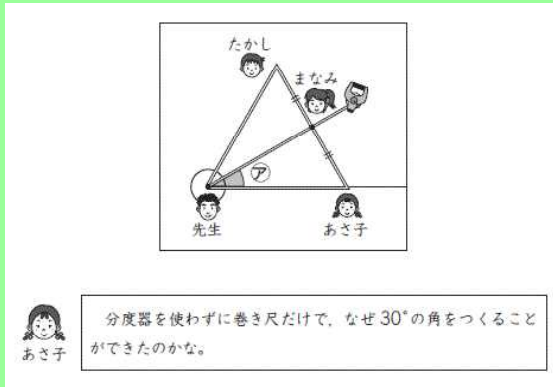
系統的に数学的な思考力・表現力を高めるために、記述式設問における実態と、小・中学校それぞれの設問の趣旨を把握しましょう

まず、円のラインを引きました。  
次に、正三角形を下の図のように巻き尺でつくります。先生は、巻き尺の「0m」のところと「24m」のところを持って、円の中心に当てました。  
そして、あささんとたかしさんに、「まわりの長さが24mの正三角形になるように巻き尺を持ってください。」と言いました。



さらに、30°の角を下の図のようにつくります。

先生は、まなみさんに、あささんとたかしさんが持っているところの真ん中に巻き尺をあわせるように言いました。そして、㊦のところを指して、「30°の角ができました。」と言いました。



ためしたこと

図1のような正三角形ABCで考えます。点Aは先生、点Bはわたし、点Cはたかしさん、辺BCの真ん中の点Dはまなみさんが、巻き尺を持っていたところになります。  
そして、点Aと点Dを通る直線を引いて、㊦の角をつくりました。

さらに、図2のように、直線ADで正三角形ABCを切りました。  
最後に、切り分けた2つの三角形を重ねてみると、2つの三角形が合同であるとわかりました。

(2) 三角形ABCが正三角形であり、切り分けた2つの三角形が合同であることをもとに、㊦の角の大きさが30°になるわけを、言葉と数を使って書きましょう。

正答は「正三角形の一つの角の大きさは60°であること」「合同な図形の対応する角の大きさは等しいこと」の両方を記述したものです。

聞き手に的確に伝わるようにするためには、根拠となる事柄を過不足なく説明することが大切です。

指導に当たっては、根拠が不足した説明を示して、「なぜこのように言えるのですか。」「もっと詳しく言えませんか。」と発問し、説明に不足している根拠について話し合わせる活動が考えられます。



中学校数学Bでは

全国(公立)	宮城県
正答率	正答率
49.1	43.7
(無解答 23.3%)	(無解答 22%)

記述式設問における小・中学校の関連

2 連続する3つの整数の和がどんな数になるかを調べます。

1, 2, 3 のとき  $1 + 2 + 3 = 6 = 3 \times 2$   
 3, 4, 5 のとき  $3 + 4 + 5 = 12 = 3 \times 4$   
 10, 11, 12 のとき  $10 + 11 + 12 = 33 = 3 \times 11$

これらの結果から、次のように予想できます。

予想

連続する3つの整数の和は、中央の整数の3倍になる。

(2) 前ページの予想がいつでも成り立つことを説明します。下の説明を完成しなさい。

説明

連続する3つの整数のうち最も小さい整数を  $n$  とすると、連続する3つの整数は、 $n, n+1, n+2$  と表される。それらの和は、

$n + (n+1) + (n+2) =$

連続する3つの整数のうち最も小さい整数を  $n$  とすると、連続する3つの整数は、 $n, n+1, n+2$  と表される。それらの和は、

【正答例(類型1)】

$n + (n+1) + (n+2) = 3n+3 = 3(n+1)$

事実の説明      根拠として成り立つ事柄の説明

$n+1$  は中央の整数だから、 $3(n+1)$  は中央の整数の3倍である。

根拠となる事柄が成り立つ理由の説明      説明すべき事柄の説明

したがって、連続する3つの整数の和は、中央の整数の3倍である。

趣旨：事柄が成り立つ理由を、構想を立て、根拠を明確にして説明する

説明すべき事柄について、論理的な思考力や表現力をみています。

「〇〇であるから、△△である。」のような形で、「根拠(〇〇)」と「成り立つ事柄(△△)」の両方の記述が求められます。

大切なことは、「何が記述されているか。」つまり、評価のポイントは「記述された形」ではなく、「記述された内容」ということです。

事柄が成り立つ理由の説明

解答類型		全国反応率%	宮城県反応率%
3(n+1)	正答	40.8	38.1
	記述誤り	0.2	0.2
3n+3	正答	3.3	2.5
	記述誤り	8.0	8.2
上記以外		24.3	25.2
無解答		23.3	25.6

【小学校における調査結果から求められる授業づくり】

記述の実態把握	記述式設問においては、何をどの程度、思考・判断したことを表現することができるのか？
積み上げる内容の確認	各学年において、考えたことをどのように表現することが求められるのか？
実態に応じた指導の工夫	単元のどの内容の指導を系統的に指導するのか？ (中学校の学習を見据えて) ・各学年における言語活動の充実 ・児童ノート指導 等

I (2) 全国学力調査問題の分析の例 ⑤ 小学校理科

解決に向けた方略をもつ力が育っているか  
解答類型と反応率から考察してみましょう (2)

ビーカーに水を入れ、ビーカーの底のはしを熱すると・・・



あたためられた水が、  
上の方に動いて、上から  
順にあたまると思うよ。

ゆかりさん

熱せられたところから  
順に熱が伝わって、水が  
あたまると思うよ。

としおさん

あたためられた水が、  
横の方に動いてから上の  
方に動き、上から順にあ  
たまると思うよ。

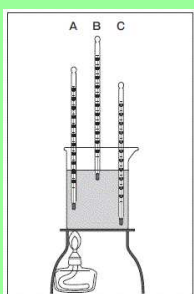
りか子さん

あたためられた水が、  
横の方に動いて、下から  
順にあたまると思うよ。

あきらさん



ゆかりさんたちは、自分たちの予想が正しいかどうかを調べるために、  
A、B、Cの3本の温度計を、下の図のようにビーカーに入れて実験  
することにしました。



(2) りか子さんの予想が正しければ、どの温度計から順に温度が高くなって  
いきますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を  
書きましょう。

あたためられた水が、  
横の方に動いてから上の  
方に動き、上から順にあ  
たまると思うよ。

りか子さん

- 1 B→A→C
- 2 B→C→A
- 3 C→A→B
- 4 C→B→A



解答類型と反応率

解答類型	宮城県反応率	全国反応率	正答
1 1 (B→A→Cの順に温度計の示す温度が高くなる)と解答	15.4%	14.8%	
2 2 (B→C→Aの順に温度計の示す温度が高くなる)と解答	5.2%	5.2%	
3 3 (C→A→Bの順に温度計の示す温度が高くなる)と解答	27.6%	24.4%	
4 4 (C→B→Aの順に温度計の示す温度が高くなる)と解答	50.7%	54.2%	◎
5 上記以外の解答	0.6%	0.7%	
6 無解答	0.6%	0.7%	

水は熱せられた部分が移動して上から順  
に温まるといった学習を通して獲得した知  
識から判断したものと考えられる

温められた水は下から順に温まるとい  
う考えから判断したものと考えられる

予想が一致した場合に  
得られる結果を見通して実  
験を構想することに課題が  
ある



予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を計画することができるようになることが大切です。そのために、実験を開始する前に結果の見通しをもち、その内容を発表したり説明したりするなどの活動が考えられます。

また、実験結果が結果の見通しと一致しなかった場合に、実験結果を基に、より妥当な考えに修正できるようにしましょう。

## I (3) 全国学力調査結果を生かした取組

### ◎学力・学習調査の活用計画を含めた指導法改善の取組

#### 指導法改善計画

- ねらい
 

一人一人の児童のよさや特性を生かし、個性の尊重を期した多様な教育を推進するために、指導方法の改善を行い、学力の向上を図る。
- 組織
 

指導法改善委員会を組織し、運営にあたる。

(運営委員)

校長, 教頭, 主幹教諭, 教務主任, 研究主任, 副研究主任, 少人数指導担当

※ 必要に応じて学年主任, 教科主任, ブロック長等を加える。
- 今年度の重点
  - 教育効果を高める学習の具体的な実施方法の確立を図る。
  - 学習指導法の工夫によって「できる」「わかる」学びの喜びを味わわせる。
- 主な活動内容
  - 算数科における少人数指導及びT T指導の指導方法の検討
    - 各学年の時間割の調整及び作成
    - 児童の実態や単元の特性に合わせた指導体制の検討
  - 指導計画の内容の検討
    - 1年間を見通しての少人数(T T)指導計画の立案
  - 学力にかかわる児童の実態調査
    - 学力・学習状況調査の分析及び具体的な指導方法の検討
  - 学習指導にかかわる共通理解事項の検討
    - 「学習の約束」「家庭学習の手引き」の再検討と掲示物・配布物の作成
  - 具体的な配置及び時間割
    - 3年生算数・・・学級担任+少人数担当( )先生 各週5時間×4学級
    - 4年生算数・・・学級担任+少人数担当( )先生 各週4時間×5学級
    - 5年生算数・・・学級担任+少人数担当( )先生 各週5時間×4学級
    - 6年生算数・・・学級担任+研究主任( )先生 各週3時間×5学級

教育計画に「指導法改善計画」を位置付け、児童のよさや特性を生かしながら学力向上を図る具体的な取組を示し、全職員の共通理解を図っています。

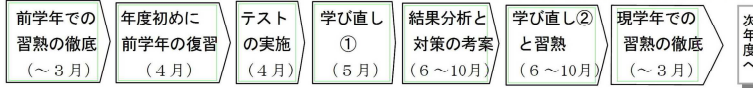
「学力にかかわる児童の実態調査」を項立てし、具体的に学力・学習状況調査の分析及び具体的な指導方法の検討を行っています。

保護者へのお便りで、学力・学習状況調査の分析と今後の対策を知らせ、協力をお願いしています。

#### 8 全国、宮城県、大崎市の学力・学習状況調査の活用計画

学年	実施日	実施教科	学校への返却時期	結果の考察(担当)	各家庭への個人票返却		
					時期	袋詰め	お便り作成
6年	4/19(火)	国・算・理	8～9月	研主, 6年担任, 6算少	10月中	教務部・研究部	研究主任
5年	4/26(火)	国・算	6～7月	研主, 5年担任, 5算少	1学期中	教務部・研究部	研究主任
4年	4/22(金)	国・算	5～6月	研主, 4年担任, 4算少	6月中	教務部・研究部	研究主任

※ 実施責任者は主幹教諭とする。



「指導法改善計画」に「全国、宮城県、大崎市の学力・学習状況調査の活用計画」を項立てし、結果の分析を基に『学び直し』を行うとともに、家庭との連携も視野に入れた取組を計画的に実践しています。

(保護者へのお便り用)

平成27年度 宮城県学力・学習状況調査の結果の配付について  
4月に実施しました宮城県学力・学習状況調査の結果を配付させていただきます。学年全体としての傾向を下記のようにまとめましたので、併せてご覧ください。学校ではこの調査結果を受け、今後もご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

#### 【学年全体の傾向】

国語	算数
<ul style="list-style-type: none"> <li>○よく理解できていること</li> <li>○漢字を抜くこと</li> <li>○読みの内容を聞き取ること</li> <li>○場面的情景を想像しながら物語の内部を読み取ること</li> <li>○音手していること</li> <li>○指定された長文で文章を量ること</li> <li>○目的に応じて資料を読み取ること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よく理解できていること</li> <li>○小数と整数のしきり</li> <li>○分数の大小関係や計算</li> <li>○グラフや表のよみ方、かき方</li> <li>○音手していること</li> <li>○示された位までの数値に表すこと</li> <li>○周知や連続する直線の定数、特徴</li> <li>○併せて表や式を式で表すこと</li> </ul>

#### 【2学期の取組】

国語	算数
<ul style="list-style-type: none"> <li>○書く活動の充実 自分の考えを短時間でまとめ、字数や内容などの条件に基づいて書くことを指導していきます。</li> <li>○資料を活用した読み取りの充実 目的に応じて様々な資料(新聞・書籍・ポスター等)を活用して調べ活動や、資料から読み取れることを話し合う活動を取り入れていきます。また、他教科や総合的な学習との連携も図っていきます。</li> <li>○言語事項の理解 授業に加え、パワertタイムや宿題等でも漢字や文法に関する内容に取り組み、基礎・基本の力を更に高めていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項の復習 習手している単元の問題や忘れていた内容を授業の掘り取りに入れたり、2学期の学習内容と関連付けたりして、習熟を図っていきます。</li> <li>○考えを式に書いて交流すること 友達と式から考え方を交換したり、式を解いて互いの考えを比べたりする活動をより重視していきます。</li> <li>○日常生活における活用 学習内容を家庭の生活場面と結びつけることで、より確かな理解につなげたり、日常生活において「習ったこと」を活用したりできるように指導していきます。</li> </ul>

#### ご家庭へのお便り

「家庭学習の手引き」(4月に配付)を参考に、「学習一(授業)一復習」のサイクルで家庭学習の習慣が定着するよう、お子さんの学習の様子を見守っていただき、意欲的に取り組めるよう話しやお声掛けをお願いします。

### ◎ 学力向上のために、こんな工夫が・・・

#### ① 指導法改善計画の作成

算数科における少人数指導及びT T指導の具体的な内容を明示し、全職員が共通理解を図り、より教育効果を高める工夫に努めています。学力・学習状況調査の活用計画を項立てすることにより、年間の見通しがもてるようになります。

#### ② 学力・学習状況調査の活用計画による調査結果を生かした取組

調査結果の分析を基に対策を立て、「学び直し」を行うとともに、家庭への周知・協力依頼を行っています。計画から確実な連携に努めていることが分かります。

※この実践例は、大崎市立古川第五小学校の実践を参考にさせていただきました。

## II (1) 教育課程を見直す8つのチェックポイント

### チェックポイント1 教育課程編成方針について

- 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程になっているか。
- 学校経営方針との整合性を図っているか。
- 標準時数の確保や余裕時数の適切な振り分けなど、適切に時数管理を行っているか。
- 身に付けさせたい力を明確にして余裕時数の活用計画を立てているか。

### チェックポイント2 志教育について

- 校務分掌に志教育担当教諭を位置付け、職務内容を明確にしているか。
- 学校の特色を生かして、志教育の全体計画及び年間指導計画を前年度の実践を生かして改善しているか。

### チェックポイント3 道徳教育について

- 校務分掌に道徳教育推進教師を位置付け、職務内容を明確にしているか。
- 各教科・領域の指導内容及び時期との関連を図った指導計画を整備し、改善を図っているか。
- 担任としての思いや願い、方針を明確にした「学級における指導計画」を作成し、活用を図っているか。

### チェックポイント4 総合的な学習の時間について

- 全体計画及び年間指導計画、単元計画を整備し、改善を図っているか。
- 探究的な学習を重視し、総合的な学習の時間として適切な単元構成になっているか。
- 指導計画では、「育てようとする資質や能力及び態度」と「評価規準」が明確になっているか。

### チェックポイント5 特別活動について

- 各教科、道徳、総合的な学習の時間などとの関連を踏まえ、特別活動の全体計画及び学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の年間指導計画を整備し、改善を図っているか。
- 学習指導要領で「学級活動」の内容として示された項目を踏まえた学習活動になっているか。

### チェックポイント6 体育・健康教育について

- 「学校体育」「学校保健」「学校安全」「食に関する指導」の関連を図った「体育・健康教育全体計画」を整備し、改善を図っているか。
- 「みやぎ学校安全基本指針」「学校防災マニュアル作成ガイド」(平成24年10月 宮城県教育委員会)を参考にして「学校安全計画」や「学校防災マニュアル」を整備し、改善を図っているか。

### チェックポイント7 特別支援教育について → P37~参照

- 「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」を整備し、活用を図っているか。
- 障害の種類や程度を考慮して、指導内容や指導方法を吟味しているか。

### チェックポイント8 学校評価について

- 学校評価実施計画を整備しているか。  
 ー 評価委員会の設置、学校関係者評価委員会のメンバー選定、実施時期、評価項目、実施対象、公表方法、評価結果活用方法等の明示をー
- 学校評価ガイドライン(文科省 平成22年7月20日改訂)を確認して計画の内容を吟味しているか。

<参考資料>

(◎=義務、○=努力義務)

学校評価の種類と定義		実施	公表	報告
自己評価	当該学校の全教職員が参加し、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さについて行う評価	◎	◎	◎
学校関係者評価	保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された委員会等が、その学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価(※:学校関係者評価を実施した場合、評価結果の設置者への報告は義務となる。)	○	○	※
第三者評価	学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況も踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について専門的視点から行う評価	法令上の義務付けはない		

### ◎ 教育課程編成で留意が必要な事項

- ① 学校や児童生徒の実態に即した教育課程になっているか。
- ② 教育計画全体に、学習指導要領の趣旨や県、管内、市町の方針、校長の学校経営方針等がしっかりと貫かれ、整合性が保たれているか。
- ③ 全教職員の共通理解が図られているか。

## II (2) 校内研究活性化の6つのチェックポイント

### ☆ 校内研究の日常化を図るためのチェックポイント

#### チェックポイント1 校内研究の目的について

- 年度当初に全体会を設定し、校内研究の目的や内容、研究計画について共通理解を図っているか。

#### チェックポイント2 研究主題の設定について

- 主題設定の理由が明確に示され、研究主題、副題、研究仮説（視点）の関係に一貫性があるか。
  - 研究主題・・・目指す児童生徒像や各教科・領域の特質などが押さえられているか。
  - 副題・・・研究主題を受けて、指導法や各教科・領域の関連などを示しているか。

※P30【資料】各校の校内研究主題一覧を参照

- 研究仮説は、以下の点について押さえられているか。

\_\_\_\_\_ において、 \_\_\_\_\_ すれば、 \_\_\_\_\_ になるであろう。  
 (内容) (方法) (目的)

- 内容・・・各教科・領域、分野、学習過程などを限定し焦点化を図る。
- 方法・・・具体的な「方法」、「手立て」、「手順」、「指導内容」を明示する。
- 目的・・・児童生徒をどのように変えようとするのかを端的に表す。
- 中学校においては、各教科の研究主題が全校研究主題を受けた内容になっているか。また、全校研究主題よりも優先されていることはないか。

#### チェックポイント3 研究推進スタイルについて

- 指導案作成→指導案検討会→模擬授業→研究授業→事後検討会→次の授業研究などのように学校独自のPDCAサイクルで進めているか。(上の進め方は一例)
- 校内研究を進めていく過程で、学年会（学年部会）や教科部会などの組織を生かし、協働態勢で取り組んでいるか。

※P17「IV(1)教科指導力の向上を図る校内研究の工夫」を参照

#### チェックポイント4 授業検討会について（事前・事後）

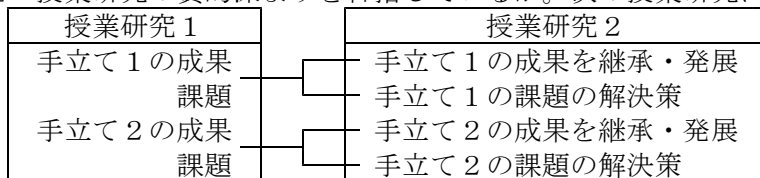
- 「手立て」や「視点」に基づき、焦点化した検討会を行っているか。
- 焦点化した話し合いをするために、研究授業前に参観のポイントを示しているか。
- 全員参加型の授業検討会にするなど運営を工夫しているか。

#### チェックポイント5 授業公開や人材活用について

- 校内で完結せずに、自主公開や保護者の参観により、多様な意見を収集しているか。
- 外部講師やマンパワーの活用を図っているか。

#### チェックポイント6 授業研究の校内でのつながりについて

- 授業研究の質の深まりを目指しているか。次の授業研究につなげているか。



### ◎ さらに、こんな視点からの再確認も・・・

- ① 具体的評価規準を作成し、評価の観点や方法について共通理解を図っているか。  
 ※P34「Ⅶ 次年度の計画作成のために (3) 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料について」を参照
- ② 校内研究の成果の検証方法が確立しているか。  
 ※P27「Ⅵ 校内研究の評価のために (1) 校内研究の評価のポイント」を参照
- ③ 校内研究の成果が、日々の授業や教育活動に生かされているか。

## Ⅲ (1) 「5つの提言」を生かした授業づくり

**指導過程**

段階	主な学習活動 ・児童の反応	・指導上の留意点 ※個に応じた支援	◇評価の観点(方法)
つかむ 10分	1 前時の学習を想起する。 2 「ふりかえりシート」で本時の学習のめあてを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">チロの一番好きなどころをしようかいカードにかこう。</div> 3 「しようかいカード」の書き方を知る。 ○ 「しようかいカード」の書き方を確認しましょう。  4 「おとうとねずみチロ」の全文を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チロの好きなところを見つけてノートに書いてきたことを確認する。</li> <li>・ 「ふりかえりシート」で本時のめあてを確認し、見通しをもって学習できるようにする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">提言3</span></li> <li>・ 「しようかいカード」の書き方の例を見せ、書く項目や、文型を理解させる。</li> <li>・ 指名読みはこれまで学習してきたチロの様子や気持ちを思い出せるよう、すらすらと読める児童を指名する。</li> <li>・ チロの様子や気持ちを思い出しながら、一番好きなどころを見付けるために読むよう、声掛けする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">提言1</span></li> </ul>	<div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;">                         「5つの提言」を位置付けています。                     </div>
考える 25分	5 チロの最も好きなどころを選んで紹介カードを書く。 ○ これまでみんなが選んだ「チロの好きなどころ」を確認しましょう。 ・ チロは、あわてていいかえしましたが、ほんとうはとてもしんばいでした。 ・ 「ぼくのこえがとんでった。ぼくのこえがとんでった。」チロはうれしがつてとびはねると・・・ ・ チロは、大きく口をあげ、いちばんだいたいじなことをいいました。「ぼくにもチョコッキ、あんでね。」 ・ チロは、「あんでね。」がきえてしまうまで、じっと耳をすましていました。 ・ もうーど、こんどはゆっくりいいました。「あ、り、が、と、う。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2次の内容の読み取りの際、児童が選んだ「チロの好きなどころ」を教材文の拡大を使って確認する。</li> <li>・ 会話はチロになったつもりで読ませ、様子を表す言葉は動作化することにより、そのときのチロの気持ちを思い出させる。</li> <li>・ これまで見付けてきた「チロの好きなどころ」の中から、チロの気持ちや様子を再度考えて、一番好きなどころを選ばせる。</li> <li>・ ハートのシールを貼ることで、「一番好き」ということを意識させる。</li> <li>・ 机間巡回をして児童が選んだ文を確認し、児童の考えを深めたり、更に思考が深まるよう声掛けしたりする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">提言1・2</span></li> <li>* 見付けることができない児童には、挿絵をヒントに好きな場面を選ばせる。好きな場面の教師の音読を聞きながら、好きな場面が書かれている文を探させる。</li> </ul>	<p>◇<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">読</span>チロの一番好きなどころを見付け、カードに書いている。 (カード)</p> <p>A:チロの一番好きなどころを見付けてカードに書き、選んだ理由をカードに書いている。</p> <p>B:チロの一番好きなどころを見付けてカードに書いている。</p> <p>C:チロの一番好きなどころを見付けることができない。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <p>Cの児童への手だて 挿絵をヒントに好きな場面を選ばせ、チロが何をしているところか分かる文を探させる。</p>
まとめる 10分	6 本時の学習のまとめをする。 ○ 「ふりかえりシート」を書きましょう。 7 次時の学習内容を確認する。 ○ 次の国語では、友達と「一番好きなどころ」を紹介し合ひましょう。 ○ いろいろな物語を読み、好きな人物を見付け、紹介できるようにしましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「紹介カード」では、一番好きなどころを書き出し、書ける児童には選んだ理由を書かせる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">提言4</span></li> <li>・ 書き終わったら、読み返して、間違いがないか確認させる。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習を振り返る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">提言3</span></li> <li>・ 次時への意欲付けをする。</li> <li>・ 休み時間や家庭で並行読書を進めることを確認する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">提言5</span></li> </ul>	

**【学力向上に向けた5つの提言】**

- 1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。
- 2 子供をほめること、認めること。
- 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。
- 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。
- 5 家庭学習の時間を確保すること。

**◎「5つの提言」を授業に生かすためにこんな工夫が…**

- ① 指導過程の「指導上の留意点」欄に「5つの提言」を位置付けることで意識化を図り、確実な実施につなげています。
- ② 位置付けた「提言」について、具体的な指導内容やその意図等を明記しています。

※この実践例は、大崎市立三本木小学校 小林真澄先生の授業を参考にさせていただきました。



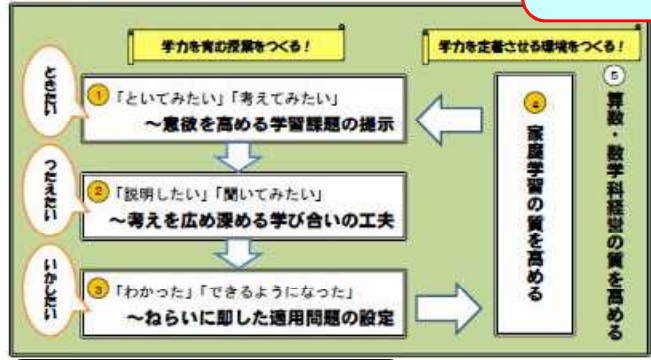
Ⅲ (2) 「算数・数学 ステップ・アップ5を生かした授業づくり



宮城県教育委員会では、本県の喫緊の課題である算数・数学の学力が向上しないことについて、宮城県学力向上対策協議会を立ち上げ、4回にわたり協議を重ねて、「学力向上対策」をとりまとめました。

この資料は、全ての教室ですぐに取り組んでいただきたい「学力向上対策」を、よりイメージしやすくするために、具体的な実践例とともにまとめたものです。

<学力向上対策>



生活に即した問題、条件不足の問題を提示し、「何が分かれば問題として成立するのか」を考えさせています。

「段階」に『ときたい』『つたえたい』『いかしたい』を示しています。

	内容 される児童の反応	指導上の留意点 【手立て】
ときたい	<p>○2本のジュースを一つに合わせてミックスジュースをつくりたいと思います。(T1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一つに合わせてということは、たし算だ。</li> <li>どのくらい入っているのかな。</li> </ul> <p>○一つのびんに0.4L、もう一つのびんに0.7L入っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1Lより多くなるぞ。</li> <li>1.1Lだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活場面に即した問題を提示することで、解きたい気持ちを高めさせる。</li> <li>最初から全ての条件を提示せず、児童に必要な情報を考えさせることで、問題解決に向けて意欲付けを図る。(T2)</li> </ul>
つたえたい	<p>2 課題をつかむ。</p> <p>○式はどうなりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>0.4+0.7</li> </ul> <p>○今までのたし算と違うところはどこですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小数</li> <li>小数点がある。</li> </ul> <p>○今日のめあては何でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日は小数のたし算だ。</li> <li>小数のたし算のしかたを考えよう。</li> </ul> <p><b>小数のたし算のしかたを考えよう</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までのたし算と違うところを明らかにすることで、小数や小数点の扱いをどうするかを意識させるようにする。</li> <li>児童の言葉から課題を決めることで、本時の学習への意欲を高める。(T1)</li> </ul>

既習事項との違いを確認し、本時の課題を意識させています。児童の発言を基にめあてを提示し、意欲を高めています。

※この実践例は、大崎市立古川第五小学校の実践を参考にさせていただきました。

### Ⅲ (3) 学力向上サポートプログラム事業の活用

◎ 平成20年度から始まった「学力向上サポートプログラム事業」は、平成28年度で第Ⅱ期目の最終年度を迎えます。本事業では、授業づくりや校内研究について、指導主事が年に3回以上継続的に支援を行いますので、校内研修の推進に役立てることができます。その年度に支援を受けていない学校でも、年度途中で追加の支援申請が可能です。

#### 平成27年度活用事例

学校課題を明らかにし、課題改善に向けた取組を計画します。

- 1 課題改善に向けた取組概要
  - (1) 課題
    - ① 全国学力・学習状況調査及び、標準学力調査の結果分析から
      - ア 基礎的な知識・技能の定着が不十分であり、文章や資料から題意を読み取ったり、筋道を立てて解答したりすることに課題がある。
      - ② 児童の学習習慣から
        - ア 目標をもって授業に臨んだり、授業の振り返りを行ったりしている児童が少ない。
        - イ 家庭学習に1時間程度取り組む児童の割合が高いが、予習に取り組んだり、自分に必要な学習を取り入れたりする児童が少ないなど、学習内容に課題がある。
    - (2) 取組の概況
      - ① 研究の視点に基づいた授業づくり
        - ア 「見通す」「考える」段階における算数的活動の工夫
          - ・ 見通す、考えるの2つの段階において、各学年部ごとに具体的な手立てを検討し、授業実践を通して妥当性、効果を明らかにする。
        - イ 日常的な活動の充実
          - ・ 学習形態の工夫、家庭学習の充実、朝の活動での単元問題ライブラリー等の活用などを通して、学習の系統性を考慮しながら、全校体制で改善を目指す。
      - ② 教師の指導力向上に向けた取組
        - ア 授業研究、事前・事後検討会の工夫
          - ・ 「全担任による一人一授業」として、「既習事項を生かしながら解決方法を見通し、自力解決を行うこと」「1単位時間で育てる力を意識し、終末段階に適用問題や学習感想を明確に位置付けた授業を行うこと」等、学習過程を工夫した授業実践を行う。
          - ・ 学年部を中心とした事前検討会＋全体での事前検討会と、ワークショップ形式等を取り入れた事後検討会を実施する。
        - イ 校内研修の工夫
          - ・ 全国学力・学習状況調査や標準学力テストの結果を分析し、各学年・全校の傾向を考察し、学校としての課題をとらえる。教員全体で結果分析をする場を設け、具体的な改善策を考え、継続的に全校を挙げて課題の解決を目指す。
    - 2 成果と今後の取組
      - (1) 成果
        - ① 研究の視点に基づいた授業づくり
          - ア 「見通す」「考える」段階における算数的活動の工夫
            - ・ 既習事項を活用し、解決への見通しをもたせることで、自力解決に向けての意欲が向上した。また、適用問題に取り組ませることを通して、学習内容の定着と解決できた満足感をもたせるとともに、次時への意欲につなげることができた。
          - イ 日常的な活動の充実
            - ・ 単元の学習内容により、少人数指導やIT指導を取り入れ、個に応じたきめ細かな指導を行い、基礎・基本の確実な定着を目指すことができた。
            - ・ 各学年で家庭学習への取組を学期ごとに振り返り、成果と課題を確認し合ったり、児童への支援を行ったりしたところ、学習時間や学習内容に改善が見られてきた。
            - ・ 朝の活動では、「みやぎ単元問題ライブラリー」等を活用し、学習の習熟を図ったり、個別の支援の対策に役立てたりすることができた。
        - ② 教師の指導力向上に向けた取組
          - ア 授業研究、事前・事後検討会の工夫
            - ・ 全員が授業を行い、参観し合うことで共同研究の意識が高まった。事前検討会と模擬授業により、指導過程や発問の仕方等を吟味して研究授業に臨むことができた。事後検討会では、視点を絞って研究協議を行い、成果と課題を確認することができた。
          - イ 校内研修の工夫
            - ・ 全国学力・学習状況調査や標準学力テストの結果を分析し、検討したことにより、児童一人一人の学習の中の陥没点や各学年での指導の重点が明らかになった。
      - (2) 今後の取組
        - ① 校内研究では本年度の課題と成果を生かして、視点や手立ての検証や絞り込みを行い、授業力向上に努めていく。
        - ② 児童の主体的な学びを目指し、家庭と連携をしながら家庭学習の充実を図っていく。

成果として、研究の視点に基づいた授業づくりによる「学習意欲の向上」「基礎・基本の定着」等、学力向上に関することが挙げられています。

また、教師の指導力向上について、「共同研究の意識の高まり」「児童一人一人の実態把握と各学年における指導の重点の明確化」等が挙げられています。

#### ◎ 平成26年度学力向上サポートプログラム事業支援校のアンケートから

本事業を活用して、「学力向上に向けた学校課題の改善が見られた」「どちらかといえば改善がみられた」を合わせると、小・中学校とも100%に達しています。また、「教科指導力の向上」や「教員の授業改善に対する意識の変容」についても、「みられた」「どちらかといえばみられた」を合わせると、小・中学校とも100%に達しています。

アンケートの記述欄には、成果として「協働性の確立」「3回という継続訪問の効果」等について挙げられていました。

※この活用事例は、涌谷町立月将館小学校の実践報告書を参考にさせていただきました。

## Ⅲ (4) 学力向上成果普及マンパワー活用事業の活用

◎ 平成27年度の学力向上成果普及教員の先生は、88名（このうち北部管内は、15名）登録されました。学力向上成果普及教員の一覧表を、毎年、各学校に配布しています。学校から市町教育委員会を通して、登録されている先生方の派遣要請をすることができます。それぞれの分野で優れた実践を行っている先生方ですので、校内研究の活性化に大変効果的です。管外のマンパワーの先生の活用も可能です。

### 活用事例

※以下、「学力向上成果普及教員」を「マンパワーの先生」と表記します。

**【その1】**

○**模擬授業提供者として**  
校内研究の主題やサブテーマ、視点を踏まえた指導案を提供してもらい、マンパワーの先生が教師役、自校の先生方が児童生徒役になって模擬授業を行う研修です。

**【その2】**

○**話題提供者として**  
校内研究の視点に沿った手立てについて、具体的な実践を基に話題提供をしてもらう研修です。自校の手立てと比較することにより、校内研究の推進に役立てることができます。


**【その3】**

○**研究授業の助言者として**  
研究授業全体会での助言はもちろん、授業者がマンツーマンで助言を受けることも可能です。特に中学校において教科担当が一人の場合は、専門的な内容について話題にでき、授業について詳細に検討することができます。

**【その4】**

○**指導案づくりの助言者として**  
研究授業当日ではなく、学年や教科部会での事前の検討会において、指導案作成の講師をお願いすることも可能です。また、模擬授業の助言を受けることも効果的です。

**【 27年度の活用状況について 】**

<p>○<b>学力向上サポートプログラム事業において活用</b> . . . . . <b>8校</b> 「古川第五小, 古川第二小, 上野目小, 宮沢小, 広原小, 古川中, 古川西中, 古川東中」 ※その他, 管外へのマンパワーの先生の活用 <b>6校</b></p> <p>○<b>事務所研修等において活用</b> . . . . . <b>3件</b> 「初任者研修会」「授業力・指導力向上研修会（講師対象）」 「大崎地区教研視聴覚部会」</p> <p>○<b>校内研修会等において活用</b> . . . . . <b>2校</b> 「真山小, 高倉小」</p>	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; font-size: small;">                 校内研修等いろいろな活用ができます！マンパワーの先生方から明日から役立つ資料を提供いただけます！             </div> 
--	--

◎ **マンパワー活用事業を通して、こんな成果が . . .**

① **校内研究の推進** ～客観的な評価を有効活用して～  
学校の伝統や独自のスタイルは大切ですが、考え方や手立てが固定化してしまうというマイナス面もあります。客観的な評価を得ることは、研究推進の原動力となります。

② **主体的な研究体制の構築** ～「学力向上サポートプログラム」の活用において～  
活用の主体は学校です。指導・助言を受けたい点を全員で確認していくことによって共通理解が深まり、主体的な研究体制が構築されます。

### Ⅲ (5) みやぎ単元問題ライブラリーの活用

「みやぎ単元問題ライブラリー」って何？

宮城県教育委員会が作成した児童生徒のための問題集です。



どんな問題があるの？

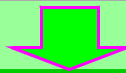
- 全学年の国語、算数・数学の問題集が利用できます。
- 問題は、学年ごと単元ごとになっています。
- 国語は2段階<ステップ1、ステップ2>、算数・数学は3段階<ホップ(基礎)・ステップ・ジャンプ(応用)>になっています。
- スペシャル問題もあります。
- 全国学力調査の問題なども入っています。

どんな使い方があるの？

- 予習や復習の練習問題として。
  - しっかりおぼえたかをみるためのテストとして。
  - 夏休みなどの課題として。
- などいろいろな使い方ができます。



「算数チャレンジ大会2015」予選・本選の問題を掲載しました。



- ◎ 「みやぎ単元問題ライブラリー」は、全国学力調査結果等から明らかになった本県児童生徒の課題を踏まえて作成された国語及び算数・数学の問題、解答例、解説版を下記のアドレスからダウンロードできます。

また、「算数チャレンジ2015」の予選・本選問題、解答・解説版も掲載されています。

<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/support/tangen/>

- ◎ 各学校では、年間を通してこんな活用が・・・

- ① 単位時間の中で、適用問題として活用しています。
- ② 単元終了後に学習内容の定着を把握するための手立てとして活用しています。
- ③ 新しい単元の導入時に、既習事項の定着状況を把握するための手立てとして活用しています。
- ④ 朝自習やドリルタイムなどで習熟を図るための問題として活用しています。
- ⑤ 活用する力を身に付けさせるため、発展問題に取り組みさせる週末の課題として活用しています。